



主要目	
建造所	日本海重工業
進水年月	1956.12.20
航行区域	沿海区域
総トン数	218.70トン
長さ	37.50m
幅	6.8m
主機関出力	360PS
速力(最大)	11.0ノット

特に昭和46年暮れから、47年始めにかけて、森繁久弥さん主演の「おも舵・とり舵」の舞台になり、全国放送されて一躍有名となり、公社のPRの一翼を担いました。

しかし、海底通信ケーブルの技術進歩は留まることを知らず、昭和54年7月その役目を終り、業務を瀬戸内丸に引継ぎ廃船となりました。

戦後、尾道を基地として瀬戸内海一円の海底ケーブルの建設保守に従事していた「海光丸」は、海底ケーブルの多対化、また、埋設工法開発導入等これらの工事に対応することが不可能なため、これら諸条件を満足する敷設船として、「瀬戸丸」が建造されました。

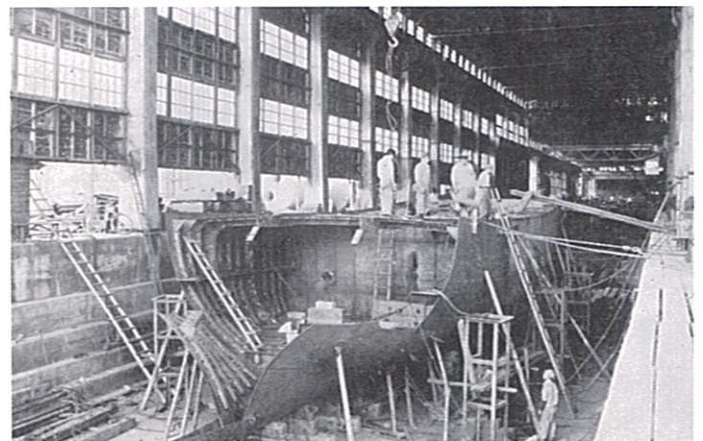
本船の特長は、

1. 敷設船で初めて可変ピッチプロペラを採用したこと。
2. 船内給電をすべて交流化したこと。

等があげられます。本船の建造費総額は6,919万6,400円で、その後操取機を“AEG”型電動油圧式に換装、また小型軽量のジャイロを新設、敷設船としての機能の拡充を図りました。

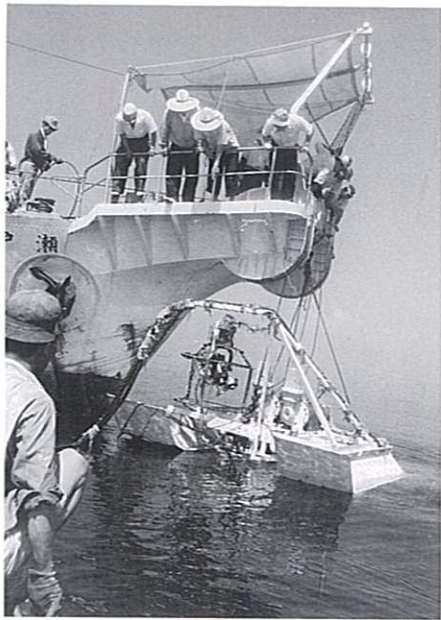
また、昭和33年には、水中ポンプ付埋設機の開発に伴い、同年7月、愛媛県長浜～青島間(13.3km)に2対PEQ電話海底ケーブル敷設同時埋設に成功、新しい埋設工法が確立しました。

このように「瀬戸丸」は小型ながら新しい時代の敷設船として息吹を感じさせる敷設船でした。



▲雪国独特のドライドック内で、船体ブロック組立中の「瀬戸丸」





▲「高速ジェット埋設機の撤去」

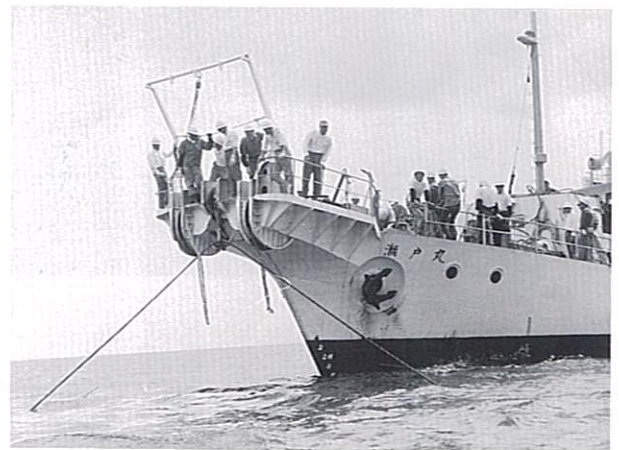
「高速ジェット埋設機の実用化」

◀昭和33年7月、愛媛長崎-青島間(13.3km)に2対PEQ電話海底ケーブル布設同時埋設工事施行。

本埋設装置は、ジェット埋設機に電動水中ポンプを搭載、瀬戸丸より交流220Vの電源を送電して水中ポンプを駆動し、ジェット水流によりケーブルを埋設する。

本装置には、ホースを必要とせず、また、布設同時埋設が可能のため、工期の短縮、作業の省力化が図れた。

本埋設機はその後米国電話会社の依頼により米国でも活躍した。



探線ケーブル船上へ▶



▲瀬戸丸最終工事風景（昭和54年7月屋代島～前島間の建設工事）